

## 領域2(プラズマ物理分野)運営会議

代表 石原 修 副代表 田中和夫

(任期H19年10月～H20年9月)

### 議題

- 1) 領域2 歴史的背景と現状、執行部体制
- 2) 領域役員(副代表、世話人)改選(審議)
- 3) 2008年秋季大会 ハイライト
- 4) 若手奨励賞
- 5) 2009年年会 - 提案審議  
シンポジウム提案  
企画講演提案
- 6) 大学内研究所の全国共同利用の方向性(三間)

## 【領域2－歴史的背景】

1877年「東京数学会社」

1884年「東京数学物理学会」改組

1918年「日本数学物理学会」改称

1945年「日本数学会」と「日本物理学会」に分離

### 1962

名古屋大学プラズマ研究所が開所され、物理学会の中でプラズマグループはプラズマ物理・核融合分科会として活動してきました。

### 1995

次第に細分化していく分科会の活動の中で、「日本物理学会」としての50周年を機会に、横のつながりを強化することを目指した改革が議論されました。

1999 物性分科会の変更の議論のなかで、1999年秋から物性分科はプラズマ・核融合、原子分子・量子エレクトロニクス、多体系・非平衡系、フロンティア領域、物理教育の各部会と凝縮系8領域（計13領域）に再構築されることになりました。

プラズマ物理・核融合は放電分科と統合されて「領域2」として出発することになったのです。

2004 その後、2004年に領域委員会規定が制定され、領域2では4つの柱、「プラズマ基礎、プラズマ科学、核融合プラズマ、プラズマ宇宙物理」を立て、その学問領域を明確にしています。

2005 領域2の活性化をめざして、2005年からは、物理学会、天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会の3学会で、年会の際に「プラズマ宇宙物理」の合同セッションが開催されています。

2009 3学会合同、8学会連携への動き。

# 領域委員会

日本物理学会

1. 素粒子論
2. 素粒子実験
3. 理論核物理
4. 実験核物理
5. 宇宙線・宇宙物理
6. ビーム物理領域
  
7. 領域1(原子・分子、量子エレクトロニクス、放射線物理分野)
8. 領域2(プラズマ基礎・プラズマ科学・核融合プラズマ・プラズマ宇宙物理)
9. 領域3(磁性、磁気共鳴分野)
10. 領域4(半導体、メゾスコピック系・局在分野)
11. 領域5(光物性分野)
12. 領域6(金属、超低温、超伝導・密度波分野)
13. 領域7(分子性固体・有機導体分野)
14. 領域8(強相関係分野—高温超伝導、強相関f電子系など)
15. 領域9(表面・界面、結晶成長分野)
16. 領域10(誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン物性分野)
17. 領域11(統計力学、物性基礎論、応用数学、力学、流体物理分野)
18. 領域12(ソフトマター物理、化学物理、生物物理分野)
19. 領域13(物理教育、物理学史、環境物理分野)

# 領域委員会の任務

- 本委員会では年次大会・秋季(春季)大会の内容およびこれらの大会に関する諸問題を審議
- 本委員会の下に  
「素核宇ビーム領域プログラム小委員会」  
「物性領域プログラム小委員会」  
を設置する。  
各プログラム小委員会は当該領域のシンポジウムや招待講演の企画・調整等を目的とし、本委員会はその決定を尊重する。

**年会の内容についての議論、  
レビューセッション及び活性化等の議論、**

## 領域 2 役員（副代表、世話人）改選

### ●物理学会の活性化WGの要望

- 3年をめぐりに体制変更（8月の理事会で承認済）
- 1-2年かけて横断型のグループ形成、
- 3-5年で他学会との連携、6-7年で国際連携
- 領域の独自性が求められる
- 規約改正
  - 役員会（領域代表1名、副代表1名、前代表1名  
領域役員（世話人）9名の合計12名）で構成。
- 任期は3年
- 実質的議論を役員会で集中的に吟味。領域代表、運営会議で決定。

# 領域2役員

	役職名	名前	所属	本部向け任期	役員任期	担当
1	領域代表	石原修	横浜国立大学	2007/10-2008/9	2009/9	
2	領域副代表	田中和夫	大阪大学	2007/10-2008/9	2010/9	
3	領域前代表	小野靖	東京大学	2006/10-2007/9	2008/9	
4	役員(世話人)	赤塚洋	東京工大	2006/5-2007/4	2008/9	シンポ
5	役員(世話人)	澤田圭司	信州大	2006/5-2007/4	2008/9	広報
6	役員(世話人)	草野完也	海洋研究開発機構	2007/11-2008/10	2009/9	シンポ
7	役員(世話人)	比村治彦	京都工芸繊維大学	2007/11-2008/10	2009/9	広報
8	役員(世話人)	渡辺智彦	核融合科学研究所	2007/11-2008/10	2009/9	シンポ
9	役員(世話人)	石井康友	日本原子力機構	2008/5-2009/4	2010/9	大会
10	役員(世話人)	吉村信次	核融合科学研究所	2008/5-2009/4	2010/9	広報
11	役員(世話人)	樋田美栄子	名古屋大学	2008/5-2009/4-	2010/9	大会
12	次領域副代表	居田克巳	核融合科学研究所	2008/10-2009/9	2011/9	
13	役員(世話人)	河村 徹	東京工業大学	2008/11-2009/10	2011/9	大会
14	役員(世話人)	古川勝	東京大学	2008/11-2009/10	2011/9	シンポ
15	役員(世話人)	利根川昭	東海大学	2008/11-2009/10	2011/9	大会

## 役員会提案(2007. 10－2008. 9)

大会(プログラム編集) 渡辺(正)、樋田美栄子(名大)  
石井康友(原子力機構)

シンポジウム・招待講演・企画講演 「草野(正)、赤塚(前)  
(3学会世話人を兼ねる)

表彰 田中副代表

会計・予算 石原代表

学会連携 石原、小野

広報(ホームページ・書記) 澤田(正)・比村(副)・吉村信次(NIFS)

編集(JPSJ) 小野

# 役員会提案(2008. 10より)

大会(プログラム編集)

石井(正)、樋田(副)、河村、利根川

シンポジウム・招待講演・企画講演

草野(正)、渡邊(副)、古川

(3学会世話人を兼ねる)

表彰

居田副代表

会計・予算

田中代表

学会連携

田中、石原

広報(ホームページ・書記) 比村(正)・吉村(副)

# 平成20年度核融合科学研究所共同研究申請書

研究代表者氏名 <b>石原修</b>				研究代表者所属機関・部局・職 <b>横浜国立大学・大学院工学研究院・教授</b>		
連絡先	電話	<b>045-339-4183</b>	FAX	<b>045-339-4183</b>	代表者 e-mail	<b>oishihar@ynu.ac.jp</b>
核融合科学研究所 所内世話人		岡村昇一 <b>0572-58-2157 (fax2666)</b>		世話人 e-mail	<b>okamura@nifs.ac.jp</b>	
研究課題 (和文)	<b>プラズマ物理に関連する科学研究諸分野の連携</b>					
研究課題 (英文)	<b>Bridge over plasma-related interdisciplinary sciences</b>					
キーワード (和文)	※3ワード程度 プラズマ物理、 科学諸分野連携		キーワード (英文)	※3ワード程度 plasma physics, Interdisciplinary sciences		

# 最近の招待講演一覧

2005年秋 同志社	高ベータプラズマの揺らぎの発展と緩和過程に関する物理研究	榊原悟 (核融合研)
	JT-60Uにおける周辺部輸送障壁ダイナミックスの研究	大山直幸 (原研)
2006年年会 (61回) 愛媛	大型ヘリカル装置LHDにおける周辺プラズマ物理の研究	増崎貴 (核融合研)
2007年春 鹿児島	The US National Ignition Facility - Its goals and scientific impact	Brian MacGowan (リバモア研)
2007年年会 (62回) 北大	プラズマ乱流 高強度レーザーによるプラズマ粒子加速と高強度科学の展開	伊藤早苗 (九大) 田島俊樹 (原研)
2008年年会 (63回) 大阪	Magnetic self-organization in toroidal plasmas-逆磁場 ピンチダイナモ効果をめぐる実験と理論の相互触発	平野洋一 (産総研)
	無電流磁場閉じ込めプラズマの超高密度をもたらす拡散障壁	森崎友宏 (核融合研)

# チュートリアル一覧

2007年春	磁場閉じ込めプラズマ中の電場と温度分布の構造形成	居田克己 (核融合研)
	非中性プラズマで見る非平衡多粒子系の緩和と輸送の基礎課程	際本泰士 (京大)
2007年年会 (62回)	プラズマ基盤のナノカーボンナノスペース制御	畠山力三 (東北)
	宇宙プラズマが決める地球環境の境界条件	寺澤敏夫 (東工大)
2008年年会 (63回)	トカマクプラズマ物理ープラズマフローとその基礎	菊池満 (原研)
	光を使った高エネルギー密度科学の展開	児玉了祐 (阪大)

# 第63回年次大会(2008年3月)

## 1. 第63回年次大会領域2 162件(物理学会全体で3605件)

プラズマ基礎 53

プラズマ科学 22

磁場核融合 67

慣性核融合 15

プラズマ宇宙物理 5

## 2. 招待講演 ①平野洋一 ②森崎友宏

## 3. 企画講演 チュートリアル①児玉了祐 ②菊池満5.

## 4. シンポジウム:

①エネルギーと保存則を考え直す—非エルミート作用素理論の進展と展望  
(領域2+領域11)

②原子・分子過程が関与したプラズマの相乗的複雑性と構造形成

## 5. 若手奨励賞受賞記念講演 相羽信行

## 6. 合同セッション:領域2+ビーム物理領域

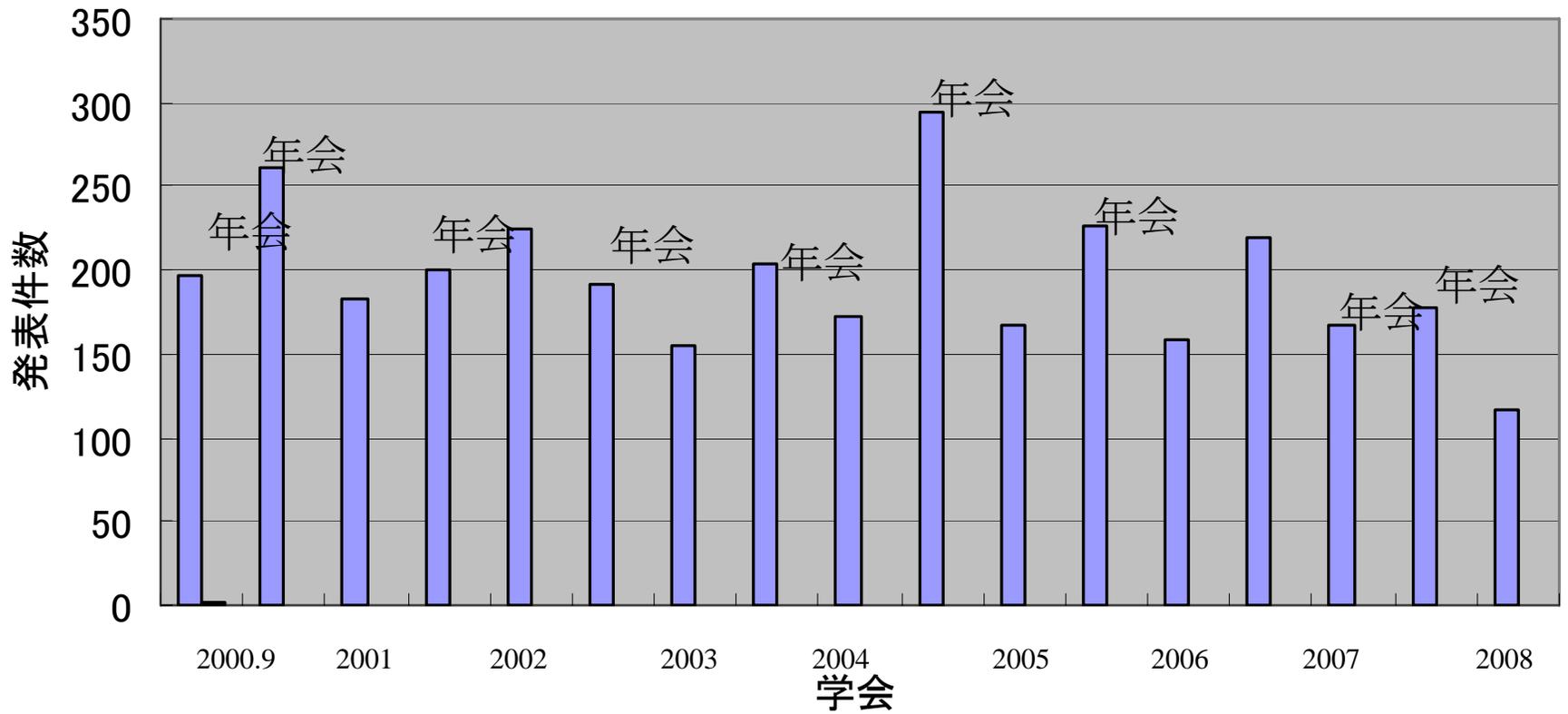
# 日本物理学会 2008年秋季大会 ハイライト

**9月20日〔土曜〕17:00-20:00 役員会**

**9月21日〔日曜〕11:30-12:30 運営会議**

**9月22日〔月曜〕17:30-20:00 懇親会**

## 領域2発表件数の推移



# シンポジウム

登録番号	日付	午前午後	会場	シンポジウム	計	8件
60024	22 日	a / p	ZB		開始時刻	終了時刻
					9:00	~ 12:25

領域	領域02	日程表用表示文字 (8文字)	分光シンポ
セッション タイトル	可視・近紫外プラズマ分光 ～核融合と基礎プラズマを診る～		
サブタイトル			

講演番号	順番	講演題目	時間	開始時間 終了時間	講演者氏名	講演者所属	会員番号	住所 不明	言語
22aZB-1	60024-1	イントロダクション ～可視分光計測系～	20	9:00 9:20	門信一郎	東大	30650H		日本語
22aZB-2	60024-2	分光診断のための衝突輻射モデルの実際	20	9:20 9:40	澤田圭司	信州大	24831D		日本語
22aZB-3	60024-3	直線型ダイバータ模擬装置における素過程の解明	25	9:40 10:05	大野哲靖	名古屋大	23841H		日本語
22aZB-4	60024-4	トカマク装置における可視分光診断	25	10:05 10:30	仲野友英	JAEA	38512G		日本語
22aZB-5	60024-5	ヘリカル装置における可視分光診断	25	10:45 11:10	後藤基志	NIFS	31604B		日本語
22aZB-6	60024-6	ビーム応用プラズマ分光法	25	11:10 11:35	居田克巳	NIFS	19286H		日本語
22aZB-7	60024-7	レーザー応用プラズマ分光法	25	11:35 12:00	佐々木浩一	名大	非会員		日本語
22aZB-8	60024-8	太陽プラズマの可視分光診断	25	12:00 12:25	一本潔	京大	非会員		日本語

登録番号	日付	午前午後	会場
60013	22 日	a / (p)	ZB

## シンポジウム

計 6 件

開始時刻	終了時刻
13:30	16:45

領域	領域02	日程表用表示文字 (8文字)	衝撃波シンポ
セッション タイトル	プラズマ中の衝撃波		
サブタイトル			

講演番号	順番	講演題目	時間	開催時間 終了時間	講演者氏名	講演者所属	会員番号	住所 不明	言語
22pZB-1	60013-1	無衝突衝撃波と粒子加速のシミュレーション	30	13:30 14:00	大澤幸治	名大理	13646B		日本語
22pZB-2	60013-2	ガンマ線バースト	30	14:00 14:30	村上敏夫	金沢大理	20257K		日本語
22pZB-3	60013-3	トロイダルプラズマにおける構造形成とポロイダル ショック	30	14:30 15:00	糟谷直宏	核融合研	39327B		日本語
22pZB-4	60013-4	レーザー核融合とプラズマ加速器	30	15:15 15:45	田中和夫	阪大工	20645E		日本語
22pZB-5	60013-5	衝撃波と実験室宇宙物理	30	15:45 16:15	高部英明	阪大レーザー研	16427F		日本語
22pZB-6	60013-6	大型レーザーを使ったレーザー駆動デトネーションの 基礎実験	30	16:15 16:45	遠藤琢磨	広大工	22848H		日本語

チュートリアル	浜口智志	大阪大学	大気圧非平衡プラズマの生成と応用 低温プラズマの物理
	米田仁紀	電通大	ウォームデンスマター
招待講演	常田佐久	国立天文台	「ひので」観測と太陽プラズマ物理学
	林泰明	京都工繊	微粒子プラズマの無重力実験

# 若手奨励賞

領域2の皆様

学会誌6月号(p. 487)でアナウンスされましたように、現在第3回日本物理学会若手奨励賞の募集がスタートしております。優秀な若手研究者の研究を奨励するためのもので、領域2で3名の枠があります。

自薦、他薦に係わらず、多数の応募をお願い申し上げます。  
(人数枠は将来的に実績に応じて変わる可能性があります。)

領域2の締め切りは9月29日〔月曜日〕。

詳しくは、別に掲載した日本物理学会若手奨励賞領域2受賞規定をご覧ください。

石原修(領域2代表)、田中和夫(領域2副代表)

# 2009年春の年会

# 3学会合同

2008年度  
3学会合同プラズマ宇宙物理セッション  
日本物理学会第64回年次大会  
2009年3月27日(金)－30日(月) 立教大学  
世話人

物理学会	代表	草野完也	JAMSTEC
	副代表	樋田美栄	名大理
	領域2代表	石原修	横国大
	領域2副代	田中和夫	阪大
		小野 靖	東大
		赤塚 洋	東工大
		石井康友	JAEA
		吉村信次	NIFS
		比村治彦	京都工織大
		澤田圭司	信州大
	渡邊 智彦	NIFS	

SGEPSS	代表	杉山 徹	JAMSTEC
	副代表	星野真弘	東大
	副代表	中村 匡	福井県立大
		臼井英之	京大
		吉川一朗	東大

天文学会	代表	松元亮治	千葉大
	副代表	柴田一成	京大
	副代表	工藤哲洋	NAOJ

2008年7月7日

物理学学会会長殿

「プラズマ宇宙物理」合同セッションの継続に関する提案

領域2代表 石原 修(横浜国大)

[oishihar@ynu.ac.jp](mailto:oishihar@ynu.ac.jp)

物理学学会領域2では過去3年にわたり、地球電磁気・地球惑星圏学会及び日本天文学会との協力に基づいて「プラズマ宇宙物理」合同セッション(以下、「合同セッション」と称す。)を実施してきました。2005年に、第1回が開かれ、物理学学会領域2が中心となり合同セッションが開催され、領域2の発表件数は300に達する活発な会議となりました。それまでは領域2では通常150～200の発表件数であったのが、飛躍的な伸びを示したこととなります。学際交流を目的として開始されたこの合同セッションは、物理学学会会員をはじめとする参加者全員に多大な学問的刺激を与えており、当初の目的を十二分に果たしていると考えられます。それ故、今後共、本合同セッションを継続して実施することが望ましいと判断し、下記の通りその継続実施を希望いたします。物理学会として合同セッションの継続実施をお認めいただくようお願いいたします。これまでの合同セッション

1. 日本物理学会第60回年会(2005.3):口頭発表121件(東京理科大 千葉県野田市)
2. 地球惑星科学連合大会(2006.5):口頭発表93、ポスター発表92件(幕張メッセ国際会議場)
3. 日本天文学会秋季年会(2007. 9):口頭発表102件(岐阜大学)

## 2. 今後の計画

領域2では、地球電磁気・地球惑星圏学会及び日本天文学会の合同セッション世話人らと協議し、合同セッションを今後3回以下の通り継続実施することを提案する。

第4回2009年3月 日本物理学会第64回年会(立教大学)

第5回2010年5月 地球惑星科学連合大会(幕張メッセ)

第6回2011年9月 日本天文学会秋季年会(未定)

## 3. 第4回合同セッションにおける関連学会員の取り扱いについて

物理学会がホストを務める次回(第4回)合同セッションでは、共催学会からの参加を促すため、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会から参加者の登録料について、物理学会会員と同等の資格で参加できるものとすることを望む。なお、講演登録者の所属学会のチェックは、プログラム編成に係る世話人とセッションリーダーが実施する予定である。

#### 4. 合同セッションの世話人

日本物理学会: 石原修(領域2代表, 横国大), 田中和夫(副代表 阪大), 草野完也(世話人代表, JAMSTEC), 樋田美栄子(名大理), 渡邊 智彦(NIFS), 石井康友(JAEA), 吉村信次(NIFS), 比村治彦(京都工織), 赤塚洋(東工大) 澤田圭司(信州大)、小野 靖(前代表、東大)

地球電磁気・地球惑星圏学会: 杉山 徹(世話人代表, JAMSTEC), 星野真弘(東大), 中村匡(福井県立大), 臼井英之(京大), 吉川一郎(東大)

日本天文学会: 松元亮治(世話人代表, 千葉大学), 柴田一成(京大), 工藤哲洋(国立天文台)

# シンポジウム提案

- 「現代プラズマ科学の最前線」

8学会連携を探る

プラズマ科学境界領域における共通  
の物理の議論

## 学会連携

- 1) 応用物理学会
- 2) 電気学会
- 3) プラズマ核融合学会
- 4) 静電気学会
- 5) 放電学会
- 6) 天文学会
- 7) 地球電磁気・地球惑星科学連合

2008. 9. 8－9. 12

ICPP2008(福岡)

2009. 2. 2－2. 4

プラズマ科学シンポジウム  
(名古屋)

2009. 3

物理学会  
(領域2－天文－地球電磁気)

- シンポジウム
- チュートリアル
- 招待講演

# プラズマ物理の活性化に向けて

「共同利用・共同研究拠点」化の動き

文部科学省

大学に付置されている研究所・研究センターを  
学術研究の発展に資する  
「共同利用・共同研究拠点」

# 「大阪大学レーザーエネルギー学研究センターの共同利用・共同研究拠点化」 —学術融合型の研究コミュニティの形成

高出力レーザー装置の開発とこれを用いた高エネルギー密度状態の科学研究

- 1) 星の内部状態に匹敵する極限的な物質状態
- 2) 光・量子放射研究（パルス電磁波、加速器）

プラズマ物理、核融合研究、レーザー宇宙物理、量子ビームの発生とその応用等

高エネルギー密度状態の科学、  
パワーフォトンクス

## 5) ビーム物理領域の合同セッション提案

領域2 小野先生、岸本先生、比村先生Cc: 田島先生、阪井様

ビーム物理領域の世話人をしております阪大産研の柏木です。秋の第62回年次大会での合同シンポジウムおよび合同セッションの企画の際は大変お世話になりました。今後とも宜しくお願い致します。本日は、2008年春に行なわれます第63回年次大会での合同セッションについてメール致しました。ビーム物理領域では、領域代表・副代表・新旧世話人で意見交換し、第63回年次大会におきましても、引き続き領域2とビーム物理領域で合同セッションを開催したいと考えております。(ちなみに、秋の年次大会の合同セッションへの講演希望は7件ありました。(領域2から3件、ビ物領域から4件))\*\*\*\*\*合同セッションに関する記載文(事務局からの原案・第62回と同じ)\*\*\*\*\*○領域2(プラズマ基礎・プラズマ応用分野):ビーム物理領域(ビーム基礎分野) 領域2(第2キーワード:高エネルギー密度プラズマ物理)とビーム物理領域(第2キーワード:粒子ビーム、ビームプラズマ相互作用、加速原理、ビーム源)は「高エネルギー密度プラズマ物理」に関する合同セッションを設ける。合同セッションでの講演希望者は、それぞれ分野、キーワードを選択し、要旨欄に「領域2合同」あるいは「ビーム物理領域合同」と記入すること。記入のない場合でも世話人の判断において合同セッションとする事がある。物理学会事務局への連絡締切期日(9/5)間近のご連絡となり、大変申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い致します。Shigeru Kashiwagi-----

-----  
柏木 茂

## 2) ビーム物理領域の合同セッション提案

○連携は我々の目指す方向

○高エネルギー密度プラズマ物理----連携の際、キーワード大切。

領域2から見たキーワード選定

第1キーワード: プラズマ基礎、プラズマ科学

第2キーワード: **高エネルギー密度プラズマ物理**

- 領域1世話人および領域2世話人

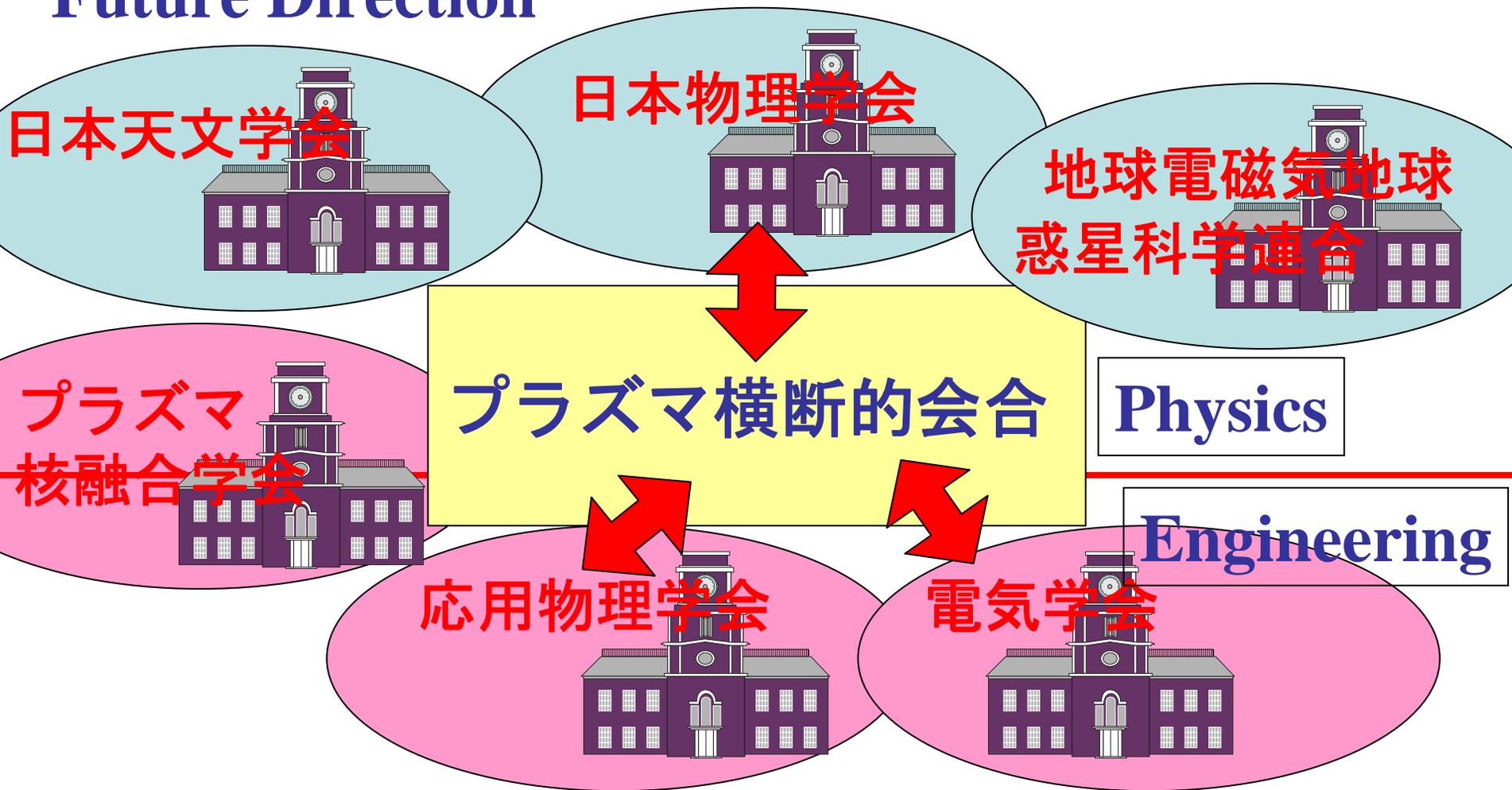
各位ビーム物理領域の世話人の小瀧といたします。「ビーム物理」には、加速器全般、荷電粒子、各種ビーム(レーザーも含む)の相互作用、レーザープラズマなどが含まれています。領域1の中に「量子エレクトロニクス」ということでレーザーやFEL、超高速現象などが入っています。領域2においては、「プラズマ」であり「高強度レーザー」も含まれています。これらは、「ビーム物理」とも関係する分野であります。これらの関係分野に関して、秋に行われる物理学会での講演を合同セッションという形で行なえないでしょうか。それぞれの領域代表とも相談の上、ご検討の程、よろしく申し上げます。開催方針の×切が2月27日となっており、あまり時間もありませんが、よろしく願い致します。

ビーム物理領域 世話人小瀧秀行

### 3) 学会連携拡大の具体案について

前回運営会議結論、物理学会WG提言を受けて6-8学会連合を模索

## Future Direction

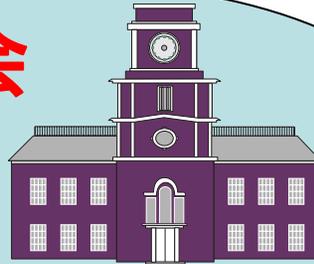


# プラズマ分野の共通セッションの提案

プラズマ分野が多数の学会に細分化、オーバーラップ

→ Union sessionsで交流を進め、一体化し、発言力を高めては？

物理学会  
JPS



Union Sessionホスト

‘07 X学会

‘08 Y学会

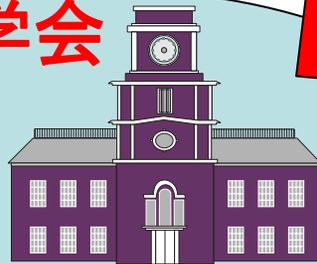
‘09 Z学会

静電気学会

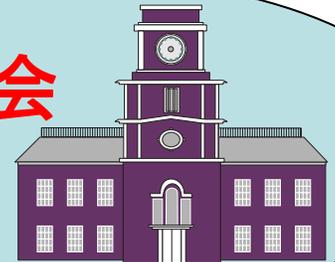
放電学会

Union Session

応用物理学会  
JSAP

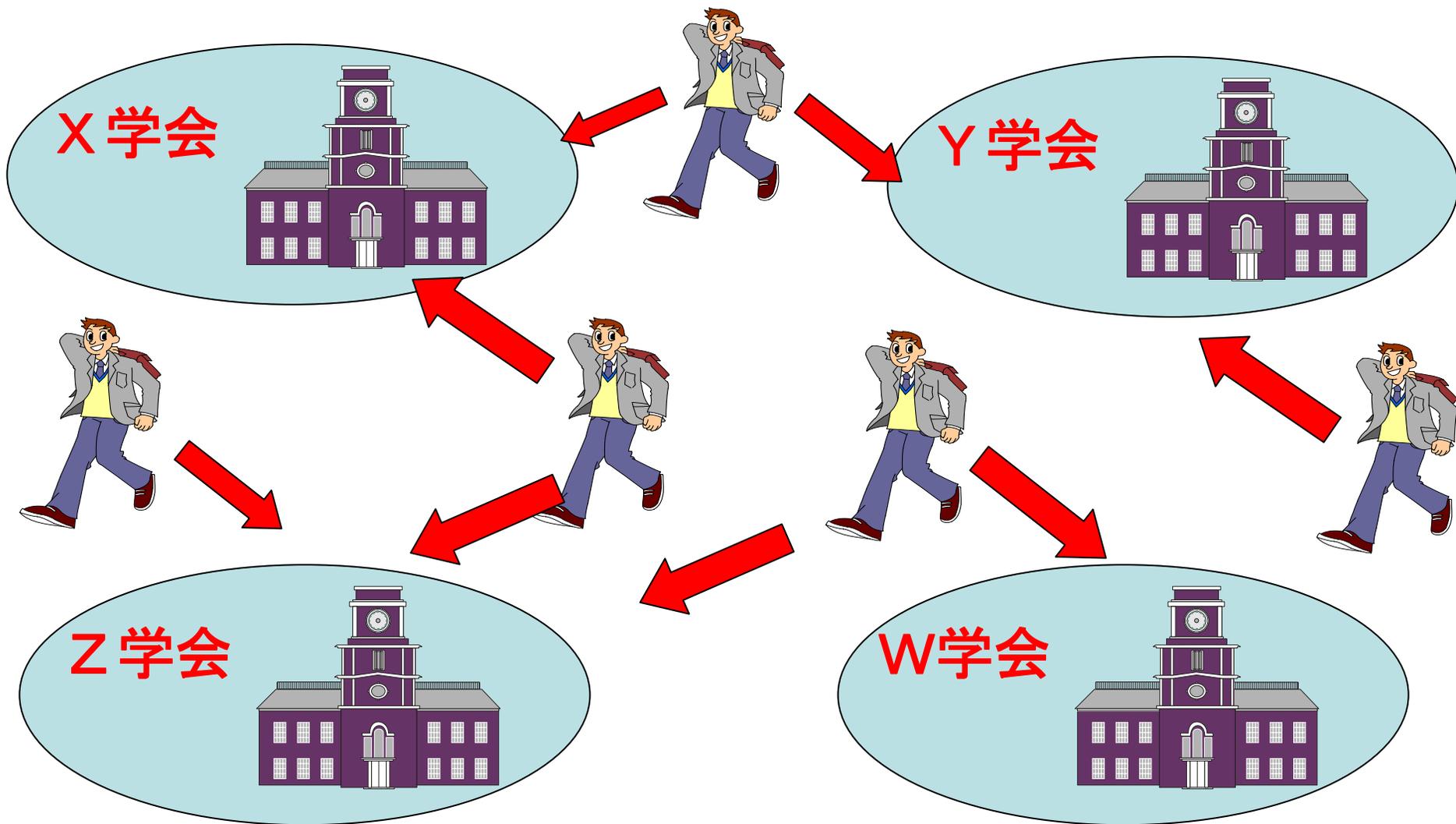


電気学会  
IEEJ



# 学会は多数でも・・・

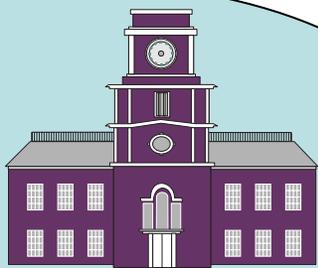
- 1) 実はメンバーは**複数学会**に関与。
- 2) 各学会は見方の差こそあれ、**似通ったテーマ**を追求。



学会は多数でも...

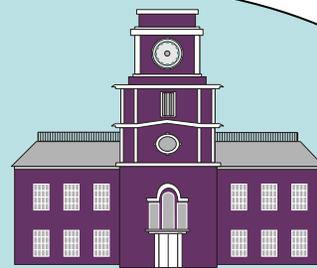
必然的に各学会のカバーする領域は重複する。

X学会



境界領域  
3

Y学会



境界領域1

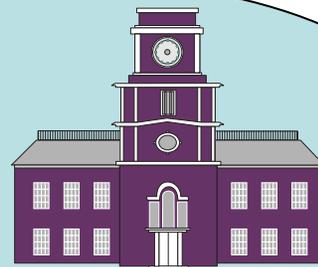
境界領域2

Z学会



境界領域  
4

W学会



# 学会連携の進展状況

## ● 1) 応用物学会

- 2月、8月と2回依頼文書を送付。畠山幹事長より議論。プラズマ科学シンポジウムを基に具体化する方向を提案いただき、領域2役員会で議論した結果、これをリニューアルすることで準備会合を発足させる方向。2009年ホストをつとめる予定の学振153委員会にも配慮が必要。具体案作成に向けて準備会合のため、担当役員2名選出。

## ● 2) 電気学会

- 8月22日電気学会プラズマ技術委員会にて議論を行い、プラズマ科学シンポジウムを基に具体化する方向でプラズマ連携の統一会議開催をサポートすることを申し合わせた。行村次期委員長から積極的にサポートいただいた。準備会合に委員を派遣予定。

## ● 3) プラズマ核融合学会

- 畠山理事より松田会長宛検討依頼を行った。さらに明日20日に畠山理事より第2の根回しのメールを送付いただく予定でそれに合わせて、領域2より公式依頼文書を送付の予定。松田会長も極めて好意的であるものの、連合講演会を通じた原子力学会とのつながりも大切にされたいとの意向なので配慮が必要。

#### ● 4) 静電気学会

- 水野会長より、プラズマ科学シンポジウムのリニューアルでも輪番制でも積極的にサポートする旨、連絡。準備会合に委員を派遣予定。ただ、輪番制の場合、ホストを務めるのは難しい。

#### ● 5) 放電学会

- 日高副会長よりプラズマの統一会議をサポートしたい旨の御発言をいただき、酒井会長にコンタクト中。

#### ● 6) 天文学会

- 3学会幹事で議論。松元、柴田先生より、プラズマ科学シンポジウムでも輪番制でも積極的にサポートする旨、連絡。準備会合に委員を派遣予定。ただ、輪番制の場合、ホストを務めるのは難しい。プラズマ科学シンポジウムのリニューアルの場合、改名が必要。

#### ● 7) 地球電磁気・地球惑星科学連合

- 3学会幹事で議論。星野、寺澤先生より、プラズマ科学シンポジウムでも輪番制でも積極的にサポートする旨、連絡。準備会合に委員派遣予定。プラズマ科学シンポジウムのリニューアルの場合、改名を含め学会間の話し合いが必要。

## 4) 理事会への申し入れについて

### ● 2007年1月領域会議承認事項

#### ● 1. 「短期的変革：学会内交流の促進」へ向けた短期アクションプラン

- 1) 年会時に「領域横断型レビューセッション」を積極的にサポート
- 領域内でも分野横断型のチュートリアル講演を企画。



「企画講演」枠の弾力運用が認められた。

- 2) 物理学会, 地球惑星科学連合, 天文学会と3学会共通セッション。

● 応用物理学会、電気学会などプラズマ応用分野を加え8学会へ

#### ● 分野を広げたプラズマ横断型分科会企画へ



● 学会側からもサポートが得られることになった。

- 3) 活動の活性化には運営組織の機動性が欠かせない。

● 現在の『代表、副代表、世話人』からなる現状の領域組織を見直して、

● 『代表, 副代表, 分野役員 (編集, 会計, 表彰, 大会, シンポジウム等)』へ

● 定期的分野役員会を開催。アクションプラン実現と主体的な領域運営。



● 役員会への衣替えを認可いただいた。

## ● 2007年9月理事会申しだし

### ● 2. 「中期的変革：各分野主体の学術分科会運営と関連国内学会との連携」へ向けた短期アクションプラン

● 1) 活性化に取り組む活動の枠を広げるため、各領域が独自に「分科会」「研究会」「講習会」「出版」を企画することを求める。

● 2) 早期に「分科会」「研究会」「講習会」「出版」を行う財政基盤を整えるため、各領域に独自予算を導入することをお願いした。学会の財政難を考慮して当面学会からの財政サポートは期待しない一方で、「分科会」「研究会」「講習会」に関連した広告収入、講演料などを独自管理する権限を与えていただきたい。将来学会からの財政サポートが始まった時点で、広告収入、講演料の一部（2割程度）を学会共通経費として納入することとしたい。



● 理事会に上程することになった。

### ● 3. 「長期的変革：分科会の国際化」へ向けた短期アクションプラン

● 1) さらに領域2ではアジア太平洋物理学会連合・プラズマ物理部門 (AAPPS-DPP) の立ち上げを主体的にサポートとしており、将来のプラズマ物理部門設立に向けた体制を整えたいと考えている。

合同セッションのキーワードがいつでも第2キーワード



大会キーワード規約修正案

- 会則改定案
- 大会キーワード設定について
- 1. 各領域を特色付ける分野をあらわすキーワードとは別に、領域2の大会方針に合わせて柔軟に対応できる、大会キーワードを設定する。
- 2. 大会キーワードは、役員会決定事項とする。
- 3. 大会キーワード運用に際しては、適宜改善ができるよう、会員からの意見を領域代表が随時メールにて受付け、代表が必要と認めれば随時運営会議の議題とする。

# 1) 領域連携の推進

## --年会プログラム:チュートリアルの新設--

- 前回議事録) 物理学会WG方針に沿い、領域間連携を推進。9月の年会(北大)では全領域が全体像をレビュー。
- 領域2も本分科会でチュートリアル講演を企画。
- APS同様、参加者が分野を超えて互いに学び教えあう場へ従来型「縦構造の教育」から「横構造の教育」へ。
- 前回(2007秋季)
  - 18日居田「磁場閉じこめプラズマ中の電場と温度分布の構造形成」
  - 19日際本「非中性プラズマに見る非平衡多粒子系の緩和と輸送の基礎過程」
- 今回(2008春季)
  - 21日畠山「プラズマ基盤のナノカーボンナノスペース制御」
  - 23日寺澤「宇宙プラズマが決める地球環境の境界条件」

## 8) 領域キーワードの件

### 問題と改善

#### 1) 領域間連携の為の第1キーワードが不足

領域2から見たキーワード選定

第1キーワード: プラズマ基礎、プラズマ科学

第2キーワード: 高エネルギー密度プラズマ物理

弾力的に第1キーワードに企画枠を設けてはどうか？

3年程度、一定人数が集まれば昇格させては？

領域2を大きくしていく仕掛けがあるとよい。

#### 2) 慣性核融合のキーワードが不足

横型のキーワードとして「高エネルギー密度プラズマ物理」

(三間先生より申請)

縦型のキーワードは慣性核融合

# 日本学術会議 物理学委員会の動き

## 物性物理・一般物理学分科会

学会年次大会(07年9月)に「物理学者の意思表出」を  
テーマ、理事会に共同企画提案中

大学法人化後の競争的環境の中で、研究基盤の充実・  
人材育成の方策を検討

## 活動(1)物理学の展望の俯瞰的発信

「学術の動向」(日本学術会議)に特集号を企画中

編集:伊藤早苗、永宮正治

12編(プラズマ物理学、およびシミュレーション科学を含む)

# 法人化後のファンディング変化

法人化前(H15)

法人化後(H19)



全体で1割減  
管理経費の増大  
→ 基盤的研究費減

## 活動(2)

### 基盤形成について実態調査

総合科学技術会議  
文科省・学術分科会  
等へインプット

学会年次大会(07年9月)に  
「物理学者の意思表出」テーマ、  
理事会に共同企画提案中

総合工学委員会に  
ITERなど核融合を  
テーマに含む分科会  
が発足した。